

令和7年度 地域づくり加速化事業 報告

御嵩町 地域包括支援センター

御嵩町の概要

- ・人口 17,437人
- ・面積 56.7km²
- ・高齢化率 33.89%
- ・地域包括支援センター 委託1か所(R6度より委託)

御嵩町の概要（特徴）

- ・岐阜県の中心にある山々に囲まれた小さな田舎まちです。
- ・中山道や城跡などの史跡が多く、戦国最強の武将と呼ばれる『可児才蔵』生誕の地でもある歴史風情のあるまちです。
- ・東西に名鉄広見線が走っており、名古屋市など都会へのアクセスも良好です。
- ・御嵩町では亜炭の採掘が盛んであったため、現在もその坑道が残っています。



加速化事業 に取り組んだ理由

加速化事業で総合事業について見直しを行う
ことになったが・・・

加速化事業の申込は地域ケア会議の実施方法の
見直しについて行った

地域ケア会議の課題として、個別事例から地域
課題が抽出できない、専門職と地域課題をどの
ように結び付けたらよいのかイメージが沸かない
など、さまざまな課題があった

抽出した地域課題をどのように解決まで導くのか、
また、地域サービスの創造をするための企画が
出来るにはどうしたらよいのかを助言してもら
いたく事業に申し込んだ

0.5mtgでまさかの展開に . . .

- 地域ケア会議で出される事例の多くが、在宅での生活に限界がきて施設に行くことになったケース
- 要介護の方が使うべき枠を要支援の方が使うことで、要介護の方のサービスが不足しているのではないのか
- 地域支援事業費が毎年超過していることから、事業が適切に運営できていない



総合事業を見直すべき!!!

御嵩町 総合事業上限額と実績額の推移							
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
原則の上限額(円)	32,954,959	34,422,165	30,082,310	30,002,418	30,818,652	31,926,346	32,329,659
実績額(円)	31,654,807	37,909,468	37,048,217	31,315,498	37,294,675	39,694,449	41,408,924
上限額との差(円)	1,300,152	-3,487,303	-6,965,907	-1,313,080	-6,476,023	-7,768,103	-9,079,265
75歳以上高齢者伸び率※1	1.0139	1.0354961	1.0598302	1.0869619	1.114462	1.1305103	1.1478071
75歳以上高齢者の変動率※2	1.0139	1.0213	1.0235	1.0256	1.0253	1.0144	1.0153

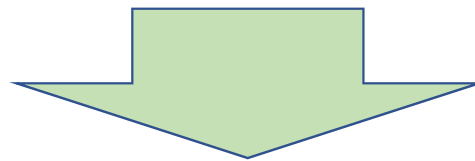
総合事業の上限額について

御嵩町では、平成29年度より総合事業を開始しているが、平成30年以降上限額を超過しており、令和5年度には900万円を超えている

御嵩町の課題

通所相当サービスに行きたい理由に「友達が行ってるから、誘われたから」等があり、目的を達成するための手段としての利用ではなく、通所相当サービスに行くことが目的となってしまう事例が散見される

要支援認定を受けた方は一般介護予防事業との併用が出来ないものと捉えていたため、予防教室等への支援に結びつけられずにいた



通所相当サービスに行くことが目的となっしまい、サービス利用が長期化し、状態が安定しても終了とならないケースが多い

地域づくり 加速化事業 第1回目支援 (R7.8.28)



- ADから【要支援】と【要介護】を分けて考える意味について学ぶ
 - 【要支援】は回復可能であるが前提
 - 総合事業では、回復可能な人を元気にしたら支援を終了することが重要！『終わりを作る』
 - 『リエイブルメント』→自分で自分を管理するセルフケアスキルを身に着ける
-
- 第2回目支援までの取り組み
 - 新規要支援、事業対象者に対してサービス・活動C(通所)の利用を検討する

地域づくり 加速化事業 第2回目支援 (R7.11.4)

- 第1回目支援から3名をサービス・活動C(通所)につなげた
- 役場の窓口に来られた方で自立度が高い方が要介護認定の申請に来た時には包括がスクリーニングを実施 R7.9～
- 新規の方でサービス・活動C(通所)につなげたケース、そうでないケースの分析を行った
- 第3回目支援までの取り組み
→まずはサービス・活動C(通所)の終了者を作る

地域づくり 加速化事業 第3回目支援 (R8.2.3)



【午前】

- 今年度のサービス・活動C(通所) を利用された方の経過報告
- 10月からのサービス・活動C(通所) 利用の3名は無事に卒業
- 新規相談の方でサービス・活動C(通所) に繋がれなかったケースの課題分析
- サービス・活動C(通所) を終了された方の今後の関わり方について

【午後】

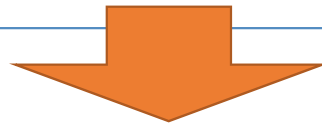
町内の居宅介護支援事業所、サービス事業所に対して、令和8年度からの介護予防・日常生活総合事業について説明会を実施

- 町から総合事業について説明
- 服部ADから「リエイブルメント」について講義
- 令和8年度からの総合事業についての説明

【サービス・活動C(通所)】 事例紹介

ケース1

- 70代男性
- 7月転倒した際に利き手の指を骨折
- 酷暑の影響もあり、思うように運動が出来ず体力の衰えを感じる
- 体の柔軟性がなく、ロボットのような動き方
- 理学療法士のアセスメントを行った際に、片足立ちは左右共に1秒も出来ない状態



ミニテニスを再開したい

【サービス・活動C(通所)】 終了に向けて

ケース1

- 開始ひと月ほどで、自宅で運動するだけでなく可動域訓練を実施するようになる
- 二カ月ほど経過したとき、ミニテニスの練習に見学に行く このときはまだサービス・活動Cを卒業することに不安を感じていた
- 三カ月経過(終了月)したとき、運動負荷の低いミニテニスを再開

これまでの 要介護認定 の申請

窓口に来られた申請者は基本的に申請を
受理

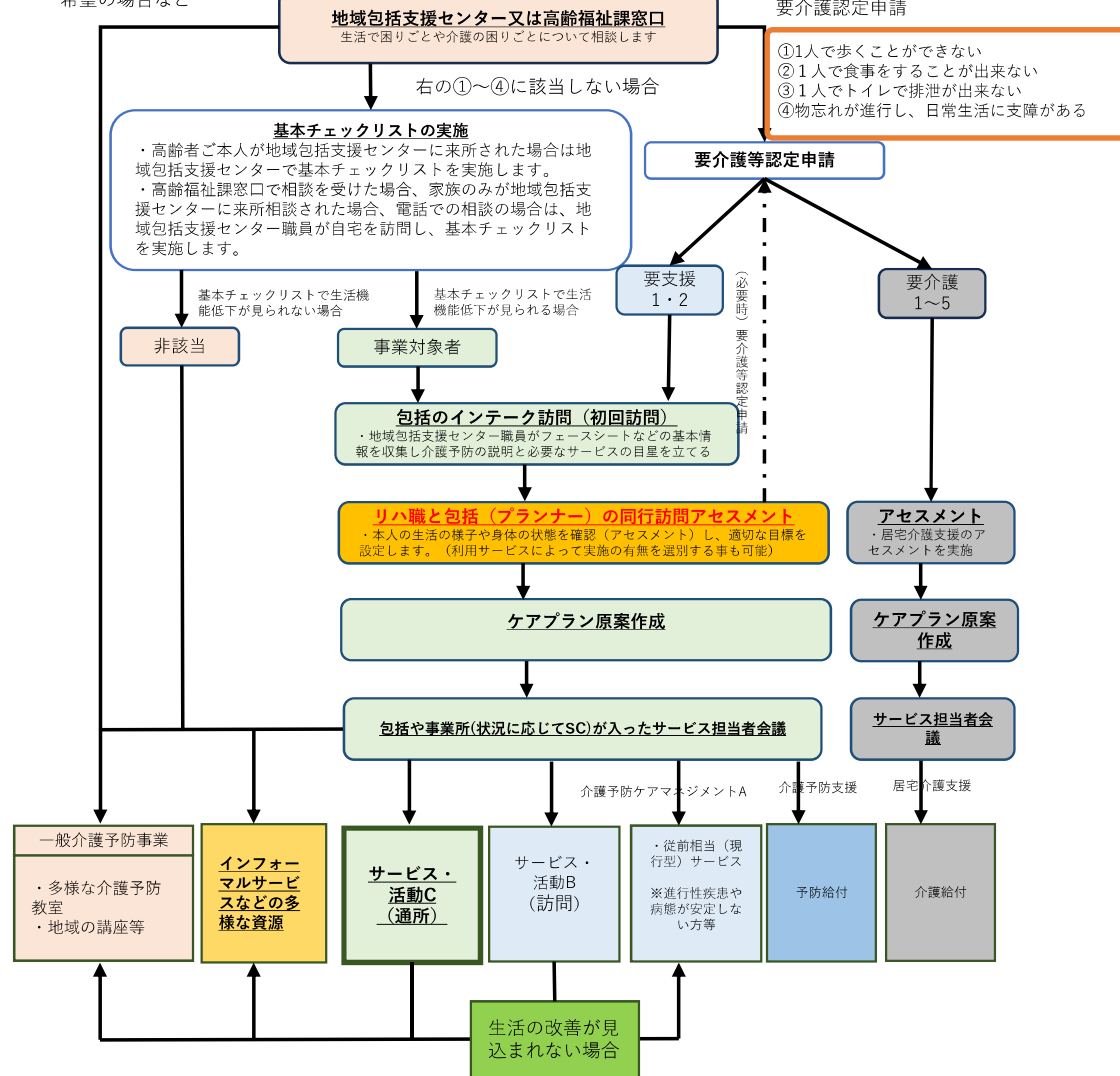
要支援の結果が出た方は包括に相談があり
通所介護、訪問介護等のサービス等を調整

介護保険を申請しても利用するサービスは
なく、未利用となる方もいる

介護予防教室等のみ利用
希望の場合など

入り口フロー図作成チャート

※①～④に該当する場合はすぐに
要介護認定申請



今後について

- 初回アセスメント時に地域包括支援センターの職員ではサービス・活動C(通所)が有効なのかが判断が難しいケースがある
→来年度から初回アセスメント時に理学療法士に同行していただく体制を整備
- 作成したフローチャートを浸透させ、総合事業の実施について居宅介護支援事業所、サービス事業所や町民の理解を得る
- サービス・活動C(通所) 終了時の評価方法や、SCを交えた今後の支援について検討を行う機会をつくる




加速化事業に取り組んでみて

要支援者や事業対象者との関わり方が明確になった

包括だけでなく、保険長寿課との意識のすり合わせ

総合事業にSCと共に活動するイメージを持てた



地域づくり加速化事業 市町村のための伴走支援

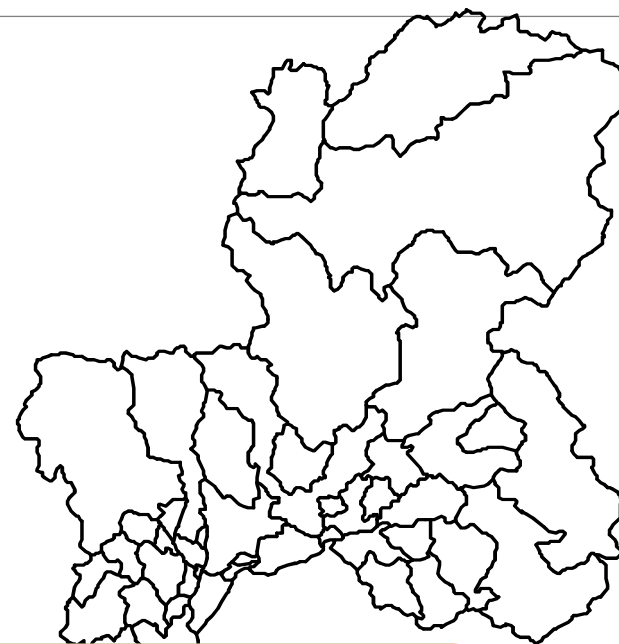
【岐阜県】

令和8年3月6日（金）

岐阜県健康福祉部高齢福祉課

岐阜県の概要(R7.4.1)

- 人口 1,901,558人
- 65歳以上人口 606,215人
- 市町村数 42市町村
- 高齢化率 31.9%
- 要支援・要介護認定率 18.5%



全国平均と比べて高齢化率は高く、要支援・要介護率は低い

支援目的(御嵩町)

- ・1回目支援時...要支援・事業対象者として支援を受けた後、卒業する人がほぼゼロに等しく、デイサービスへの依存率が高いことが課題
- ・総合事業の短期集中予防サービスであるサービス・活動C(リエイブルメントプログラム)の実施により解決を目指す
 - 包括職員が相談者をサービス・活動Cへつなげ、理学療法士の先生が面談を中心にセルフマネジメントの方法を本人へ助言・指導

支援内容(御嵩町)

1回目支援

(講話・意見交換・模擬地域ケア会議)

- ・【講話】地域支援事業における自治体の役割、
介護予防・日常生活支援総合事業の方向性
- ・御嵩町の課題について意見交換
- ・模擬地域ケア会議での事例検討

2回目支援(実践報告・課題の整理)

- ・モデル実施ケースの報告と検討
- ・豊明市リハ職による助言
- ・来年度予算、入口フローチャートの検討、
地域支援事業全体の見直し



支援内容(御嵩町)

3回目支援 (事例検討・事業説明会)

○モデル実施しているサービス・活動C(通所)の報告と新規ケースの検討

○R7御嵩町事業説明会の開催

- 地域づくり加速化事業について
- 御嵩町の現状と課題
- 【講話】リエイブルメントの視点に立った 要支援者の支援のあり方
- R7年度にモデル実施したリハビリ活動・C(通所)の報告
- 御嵩町の今後について
- 質疑応答



支援による気づきや学び



○サービス・活動Cのモデル実施と御嵩町の方針について事業者向け説明会の開催

→第1回目支援後すぐにモデル実施開始

第3回目支援までに町の方針を固め説明会を開催

○令和8年度からのサービス・活動C本格実施と御嵩町内の連携

→本格実施にあたり、事業所の職員の方やリハ職の先生に助言をもらえるような関係を地域全体で構築していくことの重要さ

令和7年度地域づくり加速化事業報告会

地域づくり加速化事業の 支援を受けて

令和7年3月6日（金）

珠洲市地域包括ケア推進室

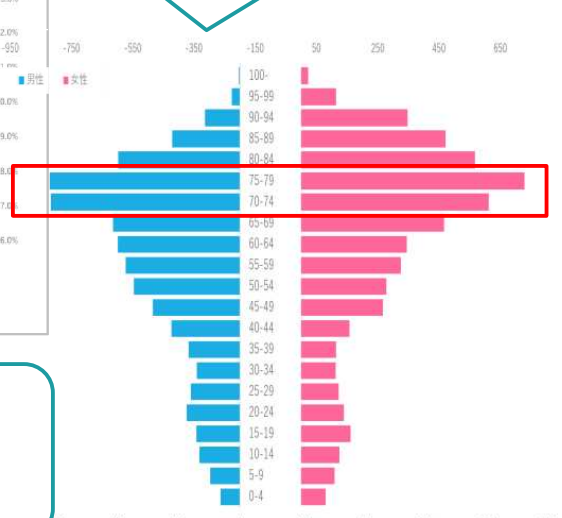
すずし 珠洲市の概要



①総人口	10,933人 (12,610人)	R7.6.1時点 (R5.12.1時点)
②高齢者人口	5,809人	R7.6.1時点
(うち前期)	2,150人	
(うち後期)	3,659人	
③高齢化率	53.13% (51.61%)	R7.6.1時点 (R5.12.1時点)
(後期高齢化率)	33.47%	
④認定率	22.4%	R7.4時点
⑤日常生活圏域	1	



70歳代が一番多い



震災前後の認定率の変化
【R5.12】 19.1% ⇒ 【R6.11】 22.6%

「地域づくり加速化事業」にエントリーした経緯

珠洲市の総合事業



「地域づくり加速化事業」にエントリーした経緯

- ・建物被害で施設が使えない
- ・福祉人材が足りない
- ・デイサービスの空きがない
(デイサービスの待機、希望回数が利用できない)
- ・お店が少ない
- ・コミュニティの変化 (住まいや地域活動の担い手の不足など)
- ・活動量の減少 (筋力や体力、認知機能の低下への懸念) などなど

総合事業の組み立てを考える？ C型？

どこからどうすればいいのかわからない

国の「地域づくり加速化事業」にエントリー

アドバイザー

- 鈴木 俊文 氏 (静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科(介護福祉専攻)教授短期大学部附属図書館長)
- 松川 竜也 氏 (ツツイグループ 顧問兼コンプライアンス室 室長 主任介護支援専門員)
- 大内 佳子 氏 (東松島市 総務部 防災課 課長補佐)

第1回支援（9月8日）

(AM) 珠洲市の現状を確認

○大谷町、蛸島町等の仮設住宅を中心とした現地視察



(PM) 関係者間で意見交換

参加者：地域包括支援センター、市社会福祉協議会（事務局長、第2層SC）、
ささえ愛センター（震災後の見守り支援事業）、
アドバイザー、厚生労働省、厚生局、石川県、珠洲市

○珠洲市から現状と課題を共有

- ・人口、高齢化率
- ・要介護認定率
- ・被災状況（人的被害、建物被害）
- ・介護サービス、総合事業
- ・その他社会資源（住まい、医療、お店、移動）など
- ・通所デイサービスの減少
- ・代替サービスの検討

➡**従来からの課題（集落や施設・サービスの点在）、
災害による新たな課題（仮設住宅暮らしによる外出の機会の減少）の深刻化などが懸念**



助言・意見交換

- 復興期における段階ごとの取組についての講義【大内アドバイザー】
- 関係者間での意見交換

- ・ まずは改めて課題の把握と整理をすることからはじめる
- ・ また、なくなったサービスをどうするかだけでなく 今ある資源、気づいていない資源をどう活かすかを考える

※例えば、デイの待機がある一方、元気な高齢者もあり、今後、総合事業をどう展開できるか？

- ・ 現在の取組は継続しつつ、介護予防をはじめ、**本来（住民主体）のあり方への回帰を意識**

第2回支援では、地域の福祉関係者などからも幅広く生の声を聞く

グループワーク

【参加者】民生委員、地域包括支援センター、介護サービス事業所、社会福祉協議会、ささえ愛センター、リハビリ専門職、アドバイザー、厚生労働省、厚生局、石川県、珠洲市（地域包括ケア推進室、健康増進センター、健康サポート推進室）

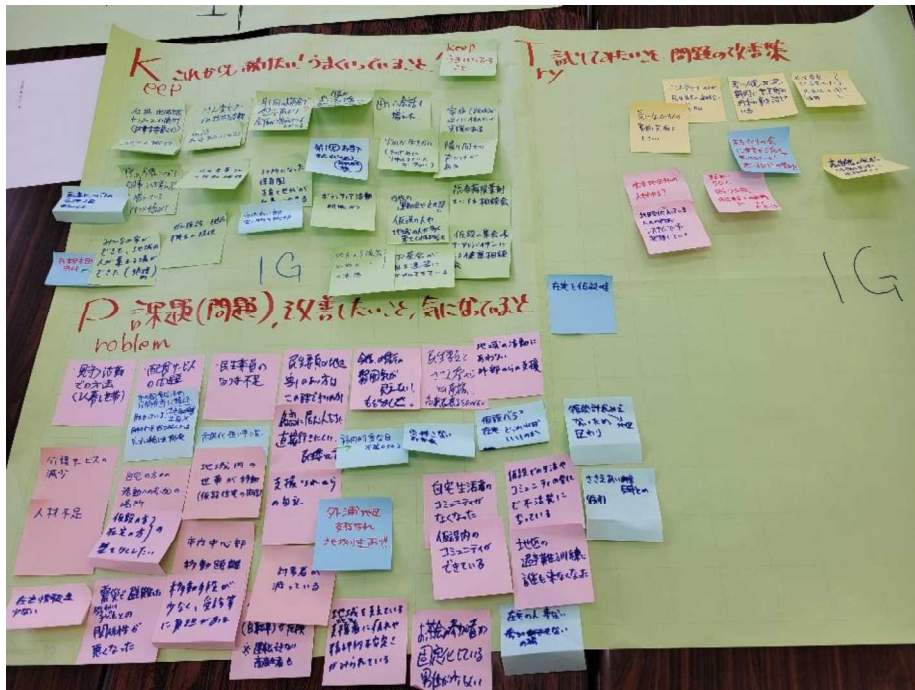
- 限られた資源の中で住民主体の福祉的支援を創出することを目的
- KPTの枠組みを用いて、現状の良い点・課題・改善の方向性を共有・整理

- ・K (Keep) : これからも続けたいこと、うまくいっていること
- ・P (Problem) : 課題（問題）、改善したいこと
- ・T (Try) : 試してみたいこと、問題の改善策

K	T
P	

付箋に書いて模造紙に貼っていく





<出てきた主な課題>

- ・在宅、仮設住宅に差がある（支援の差、活動の差など）
- ・民生委員の活動上の課題
- ・住民主体の活動を展開する上での課題がある
- ・男性の活躍の場が少ない
- ・介護予防活動の推進 など

- P（課題）、K（継続）、T（対策）についてカテゴリー分け【石川県】
- それぞれの課題に対する助言【アドバイザー】

第3回支援では、こうした声をどう具体の取組につなげていくか検討
※この支援を今後の珠洲市の復興にどうつなげていくか

【2. 5次ミーティング】

- 珠洲市の目指す将来像は？
- ロードマップの検討（方向性の共有、計画性、評価を意識）
- 介護保険事業計画、地域福祉計画、復興計画との連動性を考え、計画に盛り込んでいく

<2回目支援（11/10）以降、関係者（包括・市社協）と意見交換>

- 今後取り組むとしても、広すぎると、取り組みにくいのではないか
- 目標、目的が明確な方が取り組みやすい
- 介護予防にも「体づくり、食事、運動」と色々あるが、食事が健康、介護予防の基本であり、食事が何とかなれば地域で生活できるのでは
- 何か作って、一緒に食べるだけでもいい
- みんなで野菜づくりすれば、身体活動も増えて、つながりも広がるのでは
- 珠洲の人は畑をされていて元気だったこともあるので、食を通じた、介護予防、活躍の場、人のつながり、地域づくりを今後考えていきたい

➤「**食を通じた介護予防のための自助・互助を活かしたコミュニティづくり（仮）**」
をテーマとした取組を進めていくことが、これまで地域づくり加速化事業で出た課題等の解決にも繋がるのでは！

→ 新しい居場所、食を通じたコミュニティの形成（在宅、仮設の差を埋める）
関係者が一緒に検討する場を設けることで、情報共有を図ることができる
野菜づくりなど、男性参加へのアプローチ、介護予防効果への期待
食を通じた見守り支援への発展

住民自身が
自分事として考える
住民主体の活動

(AM) グループワーク

【参加者】 地域包括支援センター、社会福祉協議会、ささえ愛センター、
アドバイザー、厚生労働省、厚生局、石川県、
珠洲市（高齢者支援係、地域包括ケア推進室、健康増進センター）

➤「食を通じた介護予防のための自助・互助を活かしたコミュニティづくり（仮）」 をテーマにロードマップの検討、共有

① やりたいこと、やれそうなことの検討

やりたいこと、やれそ うなこと（具体的に）	目的・目指す効果



② 決めた内容を掘り下げ

やりたいこと、 やれそうなこと （具体的に）	目的・目 指す効果	誰が （どこが）	どこで	連携先 （協力先）	いつやるのか、 実施の時期 （目標）

第3回支援（1月19日）

(PM) ロードマップの作成

2025年度珠洲市地域づくり加速化事業（3回目支援）午後の部資料

作成日：2026年1月19日

テーマ：「食を通じた介護予防のための自励・互助を活かしたコミュニティづくり（仮）」 非珠洲市復興計画施策2-5

重点プロジェクト1 活動開始日 2026年〇月 評価時期：2027年〇月 評価者：

活動名：料理教室 or 食事をつながる会 or みんなで食べる会（仮）の開催

※料理を作る、習うのが目的ではなく、「集まる」「見守る」コミュニティをつくるのが目的のため、名称について要検討（皆で集まって食事を持ち寄り、食べるだけの場でもよい）

目的：復興計画 大施策2-5 医療・福祉・介護予防の再構築

中施策（2）健康寿命の延伸と介護予防の充実、（8）被災者の健康管理、（9）孤独・孤立対策

2026年度中に目指す成果：中施策（2）健康寿命の延伸と介護予防の充実：通いの場の担い手育成

（8）被災者の健康管理：被災者の健康支援、食生活等への支援（料理教室、栄養指導、簡単レシピ等の作成・普及啓発）

（9）孤独・孤立対策：被災者への見守り（相談支援や、関係支援機関への「つなぐ役割」はその次のステップ）

	準備期（2～3月）	始動期（4～6月）	展開期（7～12月）	地域福祉計画移行期（1～3月）	
1	<p>内容（候補例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漬物 ・電子レンジを使った料理教室 ・皆でお弁当を食べる <p>場所 回数等</p> <p>打合せ場所：公民館 打合せ回数：1回</p> <p>主たる実施者</p> <p>福祉課、生活支援コーディネーター（2層）</p> <p>連携者</p> <p>食生活改善推進員、地域包括支援センター長寿園</p>	<p>①テーマ・やる場所の検討</p> <p>地区社協の定例会、民生委員の集まりや座談会等で事業について説明・相談</p> <p>②先行事例の見学</p> <p>日置地区での配食サービスの見学（日置公民館）</p> <p>③活動計画の作成</p>	<p>①公民館等との連携・調整</p> <p>やる場所の選定等（候補：蛸島、日置、三崎は公民館主事が協力的）</p> <p>②連携先との日置地区の見学（冬のみ実施）</p>	<p>① 実施可能な公民館での開催、各地区での展開</p> <p>できる地区は、各地区の主要メンバーや食生活改善推進員、民生委員等を集めて実施（場所、回数は未定）</p> <p>② 民間組織の情報収集</p> <p>協定締結事業者（明治、タニタ等…）や協定内容について、復興、財政部局等に確認し、民間企業の活用についても検討していく</p>	<p>①公民館で料理教室の開催（2回目）</p> <p>②担い手の育成、増加（主担当 or お手伝い）</p> <p>→徐々に福祉課主導から移行させる（コアメンバーを増やす、参加メンバーの変更なども）</p> <p>③ 民間活用の検討</p> <p>④ 地域福祉計画への追記（40、45ページ）</p>

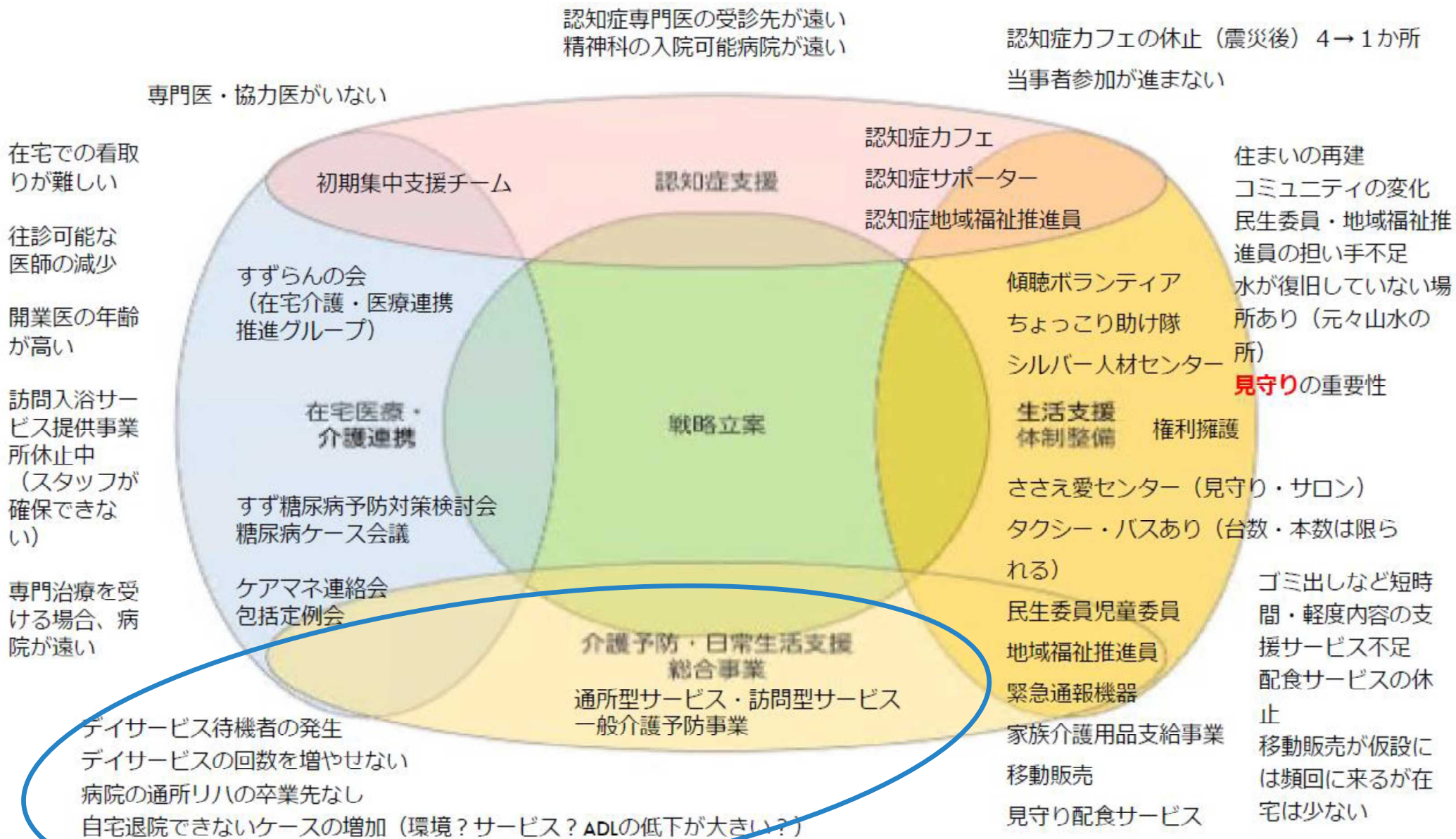
先行事例の見学

日置地区でのお弁当事業（10～3月、月1回）の見学

- ・・・地域福祉推進員（6名）が前日に献立を考えて買い出しを行い、翌日午前中に調理し、民生委員が75歳以上独居高齢者の自宅を1軒ずつ訪問し、声かけをしながら手渡し。



参考：珠洲市の抱える地域資源や課題（第1回支援資料）



←当初、この部分しか見えていなかった

支援を受けてよかったこと

- できていることに、目を向けることができた
- たくさんの肯定的な言葉で認めていただいた
- 視野を広げていただいた
- 客観的な助言をいただき、構造的に考える等の方法を教えていただいた
- 常に寄り添っていただき、珠洲市のやりたいことを引き出していただいた
- 様々なつながりができた



みなさん、本当にありがとうございました

地域づくり加速化事業における 伴走支援の取り組み

～石川県・珠洲市支援～



石川県健康福祉部長寿社会課
地域包括ケア推進グループ

石川県の概要



総人口 **1,089,858人**

高齢者人口 **332,196人**

高齢化率 **31.1%**

要介護認定率 **19.0%**

(圏域別)	能登北部	能登中部	石川中央	南加賀
総人口	48,162	105,683	265,488	670,525
高齢者人口	25,718	44,574	71,250	190,654
高齢化率	53.6%	42.4%	27.2%	29.1%
要介護認定率	20.5%	18.8%	17.7%	19.4%

※総人口・高齢者人口・高齢化率は2025年10月1日時点
※高齢化率は総人口から年齢不詳人口を除いて算出
※要介護認定率は2025年10月末現在

能登は高齢化と人口減少が著しく、金沢市近郊は人口が多いなど様々な地域性があり、市町の抱える課題もそれぞれ・・・

令和6年能登半島地震・珠洲市の伴走支援へ

令和6年能登半島地震

発生時刻 令和6年1月1日16時10分

震源地 石川県能登地方（震源の深さ 16 km）

地震の規模 マグニチュード7.6（最大）

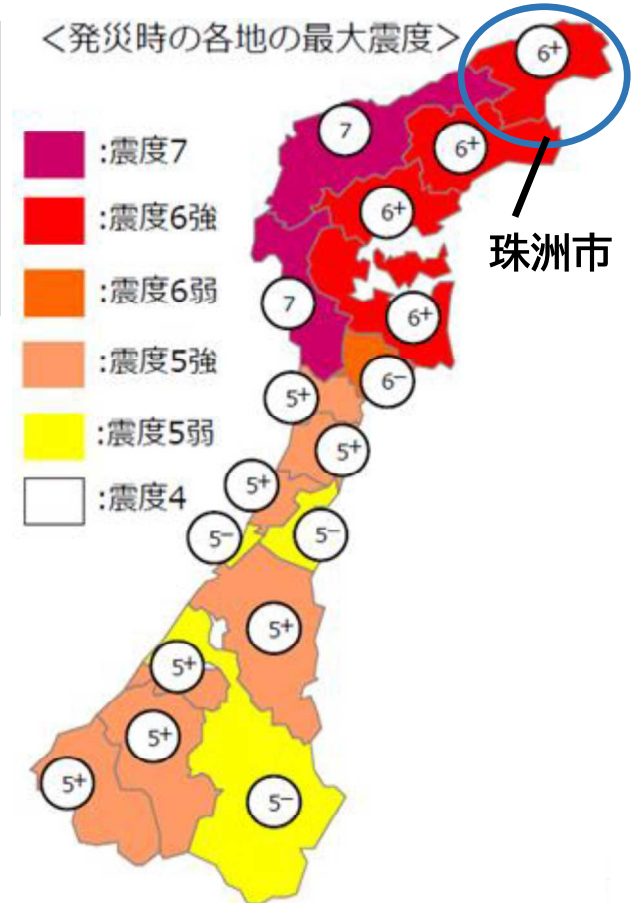
○高齢者施設等の福祉施設にも甚大な被害が発生

➡施設の休止や廃止等により、介護保険サービスの利用者だけでなく、そこで働く従業者も生活の場を失なった

○震災後、被災市町の要介護認定率は増加し、ピークは越えたものの、現在も高止まりの状況が続く

➡特に軽度認定者の増加が目立ち、要介護化や状態悪化の取組の強化が課題

<発災時の各地の最大震度>



令和6年能登半島地震で大きな被害を受けた**珠洲市**が本事業にエントリー

→県としても、今後の復興に向け、地域のニーズと資源を整理し、被災地に寄り添った取組や今後の方向性について共に考えていきたい

→また、地域コミュニティの変化や、福祉サービス、人材の確保といった課題を踏まえた地域包括ケアシステムのあり方については、従来から全ての地域が抱えている課題であり、今後の中長期的な課題への対応に通じるものが得られることも期待

珠洲市支援における県の取組

①県の支援体制

長寿社会課 3 名体制で支援

- ・ 地域包括ケア推進グループ 2 名
- ・ 災害復旧班 1 名（千葉県からの応援職員）

②支援チームとの調整

アドバイザー、厚生労働省、東海北陸厚生局等の支援チームとメール等で密にやりとりをし、円滑な連携に向けた橋渡しを行った

③県と市で進捗状況等の確認や、方向性の確認

必要に応じて県と市のオンライン打合せの場を設け、市の考えを丁寧に共有するよう努めた

④地域づくり加速化事業終了後のフォローアップ

珠洲市の担当者と一緒に、市内の先進的な取組を視察
（地元の高齢者と一緒に弁当づくり・仮設住宅を訪問）



伴走支援での気づきと学び

- 3回の実地支援で支援チーム、珠洲市や地域の関係者との意見交換を通して、課題や方向性が共有でき、情報共有（連携）するための場の必要性を感じた。
- 関係者との意見交換を重ねる中で、既存の取組、活動団体などの地域資源の可能性に気づくことができた。
- 「自助・互助を活かしたコミュニティづくり」を推進するため、アドバイザーの助言のもと、中長期的な視点も踏まえた今後の対応方針（ロードマップ）を作成することができた。
- 今回の支援を通じて、3名のアドバイザーの方々との連携関係を構築できたことは、今後の事業推進において大変心強いものであり、県や市にとって大きな励みとなった。

今後の展開

- 今回の支援実績を市町介護予防担当者等研修で報告
(令和8年3月16日予定)
→他市町の取り組みの参考にさせていただき、地域づくりの充実を図る

- 県としても、市町と密に連携を図りながら、地域特性やニーズに合わせた、市町に寄り添った支援を行いながら、各地域の地域づくりの取組を一層加速させていきたい

鈴木アドバイザー、松川アドバイザー、大内アドバイザー、
厚生労働省、東海北陸厚生局の皆様、ご支援いただき、ありがとうございました。

令和7年度地域づくり加速化事業 市町村伴走支援を受けて



静岡県賀茂郡松崎町役場
健康福祉課 介護保険係 渡邊 美樹

1 松崎町の概要



- 人口：5,589人
- 高齢者：2,841人
(前期 1,092人 後期 1,749人)
- 高齢化率：50.8% (県内3位)
- 認定率：18.7%

R7.3.31現在

- 静岡県で2番目に小さい町
- 総合計画
「ここでは、誇り高く穏やかに、豊かに生きられる
～コンパッションタウン松崎～」
- なまこ壁、たんぼを使った花畑、石部の棚田、富士山が
世界で一番きれいに見える町宣言

2 町の現状とエントリーの背景

【介護保険】

- 総合事業：従前相当サービスのみ
- 生活支援体制整備事業
社会福祉協議会への委託事業
予算執行額0円
協議体の設置なし
- 町内ヘルパー事業所は4事業所

【隣町（西伊豆町）】

- ヘルパー事業所が3事業所閉鎖
→ 3事業所に



生活支援の体制づくりが急務

【社会福祉協議会】（福祉係委託事業）

- ハート&ヘルプ事業の利用者が少ない
（有償ボランティア）稼働2件のみ

【企画観光課】

- 総合計画に紐づく
「まちづくりのための学びあい講座」
支えあいチームがH&Hを見直し



働きかけていく必要性

3 松崎町チームの希望する取り組み

＜松崎町チームメンバー＞

- 介護保険係（計画、予算、生活支援体制整備事業などを担当）2年目
- 介護保険係（総合事業、地域支援事業などを担当）3年目
- 地域包括支援センター主任介護支援専門員 5年目
- 社会福祉協議会事務局長 1年目（前年12月に採用）
（委託事業、生活支援体制整備事業（SC）・ハート&ヘルプ担当）

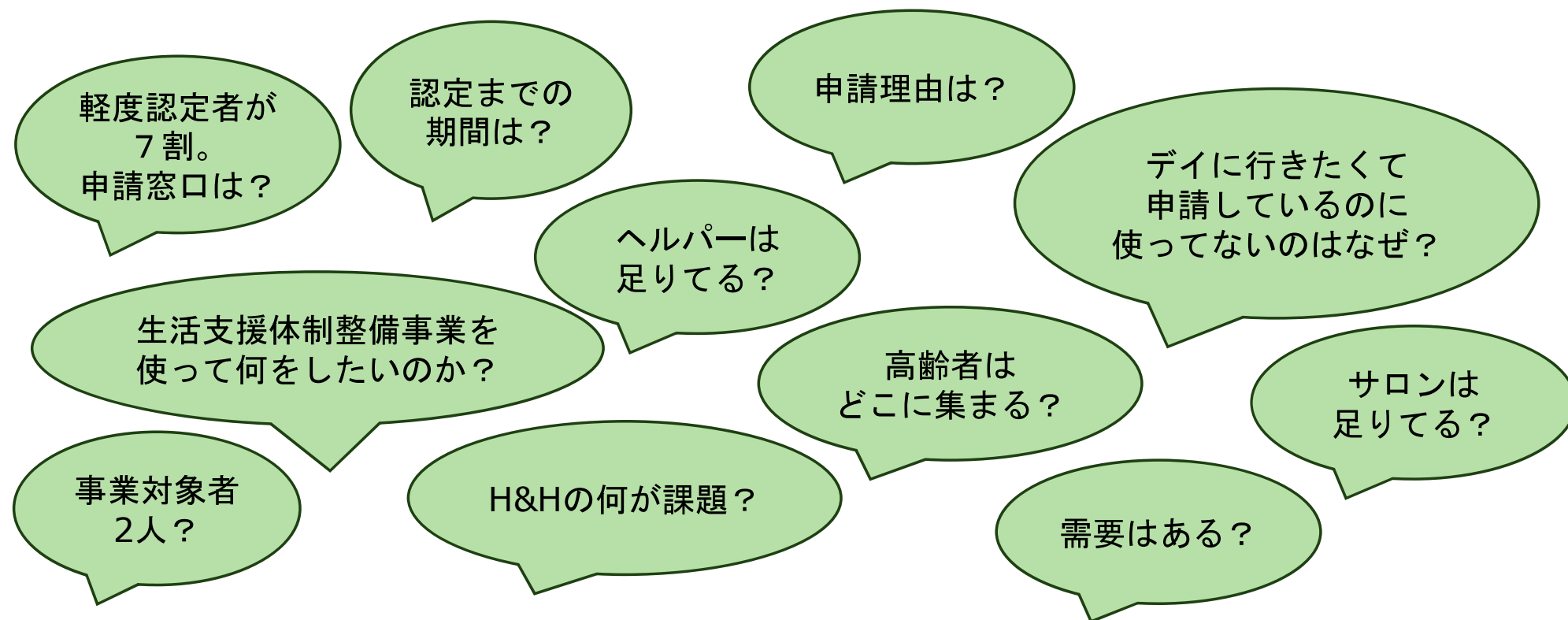
①協議体の設置

②総合事業サービスの構築（通いの場・移動支援など）

③ハート&ヘルプ事業の活性化

これらに向かって0.5mtgを・・・

4 0.5mtg



どの事業に手を付けたらよいのか、
松崎町チームの中で不明瞭



1回目支援
＜事業の洗い出し＞

5 第1回目支援<課題の整理・気づき>

◎介護認定の申請理由は？

- ・何かあった時のため
- ・デイサービスを使いたい
- ・ヘルパーを使いたい

◎その背景・きっかけは？

- ・配偶者が亡くなって1人暮らしになった
- ・仲が良かったご近所さんが入院して引きこもりがちになった
- ・空き家が多く、お隣さんが遠い
- ・同居者はいるが、日中独居になる
- ・サロンに行きたいが移動手段がない

気づき

◎過疎化、高齢化などにより近所付き合いが減少



◎見守りの目が減少



◎デイ・ヘルパーが見守りの目を担っている



◎デイやヘルパーに代わる見守りの目がないので
デイやヘルパーが不要な方も利用している



◎重度の方と同じサービスを受けることで、
重度化していく

加速化事業でやっていくこと

ハート&ヘルプ事業を見直し、
デイやヘルパーに代わる見守りの選択肢を増やす

PM~
豊明市ちゃっとシステム

6 1/3を消化・・・

アドバイザーから

- 課題が見えていない
- 数が多ければいいわけではない
- 思い込みでやるとよくない方向に行く可能性がある

- ①協議体の**設置**
- ②総合事業サービスの**構築**（通いの場・移動支援など）
- ③ハート&ヘルプ事業の活性化

変化

制度を作ることが目的になっていた。
行政目線から、高齢者やその家族の目線に変わった

7 1.5mtg

調整

◎福祉係へ

- ハート&ヘルプを生活支援体制整備事業として介護保険係で取り組みたい

(一般会計から特別会計へ)

- 福祉係としても、ハート&ヘルプが稼働できていないことが課題としてあった。

◎松崎社会福祉協議会へ

- ハート&ヘルプ事業と生活支援体制整備事業を委託に出しているが、次年度以降は生活支援体制整備事業としてハート&ヘルプ事業を委託に出す予定。(生活支援体制整備事業として一本化)

- 生活支援体制整備事業はもともと実績がゼロ。会計が変わるだけで問題ない。

<どう進めていくか>

●ハート&ヘルプの課題

- ・登録・報告事務の煩雑さ
- ・マッチングの難しさ
- ・広報・啓発が足りない

- ハート&ヘルプの制度を見直している
学び合い講座の支えあいチームがある

- 峰輪地区では独自にハート&ヘルプに取り組んでいる

- 介護予防教室など元気な方が来ている



実際にマッチングを試してみる

- ・困りごとがあった時に、介護予防教室などで協力者を募る
- ・独自に取り組んでいるものを壊さないように、地区は別のほうが良い

8 第2回目支援＜マッチング事例＞

事例1 雑誌を買ってきてほしい

●ヘルパーから

●同じ地区の知り合いに声をかけて仕事帰りによってもらった

(利用者) 大変助かる。

お金を出してでもお願いしたい。

(支援者) これくらい、声をかけてもらえればやる。お金はいらない。

事例2 配食サービスの利用券を買ってきてほしい

●ヘルパーから

●ハート&ヘルプの登録者へお願いし、仕事終わりに買ってきてもらった。

(利用者) 助かりました。

ちょっとした会話もできていました。

(支援者) お金を預かるのは怖い。

アドバイザーから

○サービスが入っていない方の困りごとをどう拾っていくか

○支援者の広がり難しい

○困りごとはタイミング。相談があった時がやってほしいタイミング。登録したけど依頼がないとモチベーションも下がる。どちらかを先に募るのではなく、マッチングを地道に繰り返し、課題や利用金額などの意見を聞いたり、支援者の確保をしていくほうが良い

使うのは住民
住民に聞くことが一番！

不安...

一緒にハート&ヘルプの見直しに取り組んでくれる団体は？→[学び合い講座の支えあいチーム](#)

9 2.5mtgに向けて

事前調整

◎企画観光課

- 介護保険係でも国の伴走支援を受け、実際にマッチングをしながらでハート&ヘルプの見直しをしている。
- 支えあいチームの活動に沿った形で、介護保険係が加わる想定。
- 将来的には、生活支援体制整備事業の協議体として位置付けたい。
- 学び合い講座のグループも**独立させていきたいと考えていたタイミング**。
- 活動の先が見えたのは良いこと。
- 介護保険係で動かすのは違う。

※学び合い講座

総合計画の5本の柱をどう住民に伝えていくか学び合う場

◎学び合い講座：支えあいチーム

- ハート&ヘルプ事業の見直しをし、地域で高齢者を見守る体制作りをしていきたい。
- 金額や時間の設定、手続きの簡略化などを検討している。
- それらに対して、支えあい講座の皆様にもご協力をお願いしたいこと。
- 今までの活動の報告。
 - ・制度の名称の見直し
 - ・広報活動を地区単位で行うこと
 - ・アンケートでニーズを把握する予定
 - ・利用券を各地区で販売
- 協議内容が具体的に反映できず行き詰っていたので、**活動の見通し**ができた。

10 2.5mtg

松崎町参加者

- 松崎町チーム
- 支えあいチーム
- 企画観光課

<協議体として>

企画観光課

- 熱心に協議を重ねているチーム。実際に活動していく段階にきている。自立に向けて町の制度と一緒に進めていけるような活動になるとありがたい。
- チームの活動が町に広がっていくのが一番目指す形。

アドバイザーの働きかけ

- 事前に送付した、支えあいチームの活動報告を元に、今までの取り組みを丁寧に聞いてくれた。
- 支えあいチームが提案していることに対して、見通しがあるのか、困っていることはないか。
- 町に対して考えていることは何か

「町で働きかけてもやらされ感がでる。住民だけではどうにもならないところもある。
町でやるべきこと、住民でやったほうが良いことなど、本音で話す場が大事」

3回目支援 目線合わせ

1 1 第3回目支援＜目線合わせ＞

＜当日スケジュール＞

- はじめに
- 地域づくり（事例2含む）
～福祉からのアプローチ～
- マatching報告
- 意見交換
- 北極星の共有
- H&Hの具体的な課題と打ち手
- 振り返り
- アフターミーティング

支えあいチームの発言から

- （事例紹介より）全戸訪問をしてみたいと思った。
- （事例紹介より）アイデア全部出しがよかった。
- 民生委員や保健委員をうまく活用していけばよいと思った。
- 町のお店と連携していくのもよいと思った。
- 楽しそう
- 心強い

伝えたこと

- 今までの活動と変わらないこと
- 協議体となることで、社協や民生委員や町のお店など、横のつながりができること→活動が広がっていく



協議体の誕生！！



互いに気に掛け合える愛あふれるロマンの町

12 地域づくり加速化事業を受けて

- ①協議体の設置
- ②総合事業サービスの構築（通いの場・移動支援など）
- ③ハート&ヘルプ事業の活性化

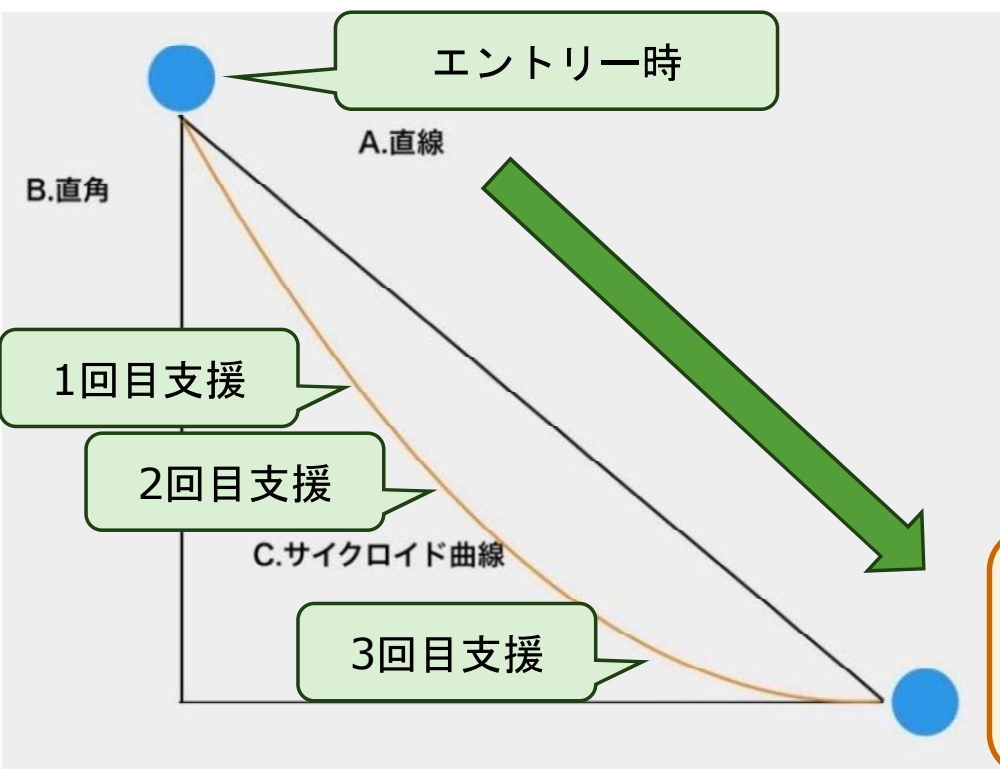
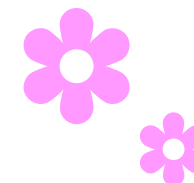
<市町村情報共有シート>

【取組みたいこと】

- ・資源の整理（→広報）とニーズの把握
- ・協議体の設置
- ・総合事業の設置
- ・情報が集まる、共有できる仕組みづくり
- ・H&H事業の促進

【支援チームに期待すること】

- ・生活支援体制整備事業の中で集まった資源を生かし、総合事業のサービスや支援の輪を広げるための助言をいただきたい。
- ・協議体の運営手法について知りたい。
- ・他課企業などの連携についてサポートしてほしい。



- ①協議体の設置
- ②総合事業サービスの構築（通いの場・移動支援など）
- ③ハート&ヘルプ事業の活性化

12 地域づくり加速化事業を受けて



4人
介護保険係
地域包括
社会福祉協議会

4人
+福祉係

4人

総勢 20人

12人
+企画観光課
+支えあいチーム

行政目線
・やらないと
・作らないと

住民目線
・住民にとって
・なぜだろう

傾聴
・住民にきく

協働
・共に協力していく
・できること
・できないこと
・話し合う

人や関係機関、
気持ち、考え方
つなげて
もらった

何のために？なんで？
(警戒)

いいんじゃない？
(承認)

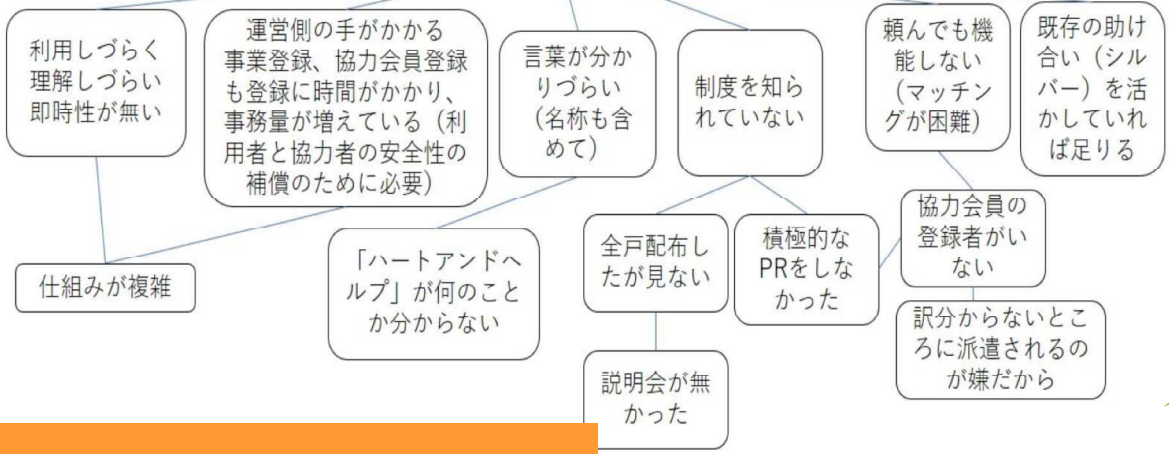
楽しそう
やってみたい

13 今後の取り組み

・ プロセス (手順や仕組み流れ) に着目して「なぜ？」を考える

ハート&ヘルプ事業は、高齢者や支援を必要とする方々に大きな助けとなる仕組みであるのに、十分に活用されていない。

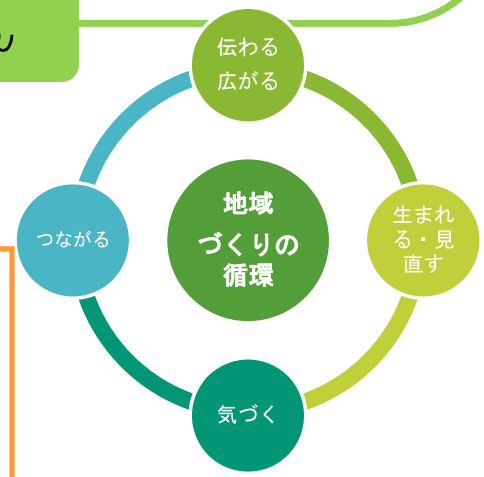
WHY?



<支えあいチームの声>

- ・ 希望が見えてきた
- ・ チームに役場が加わり心強い
- ・ みんなのやる気や希望がでてきた
- ・ 楽しかった
- ・ 様々な方たちとチーム松崎で北極星を目指していきたい
- ・ 目的や実態を町と共有できた
- ・ もっと話を伝え、協力者を仰ぎたい
- ・ 何かできそうな気がしてきた

課題はたくさん



地域づくり加速化事業を受けて

今回の支援では、人や関係機関などのつながりについて学ばせていただきました。係内では地域ケア会議や介護予防教室など、まだまだつなげていきたいと感じているものがたくさんあります。今回の学びを通して、地域づくりの循環を加速化していきたいと思えます。

R7地域づくり加速化 事業を振り返って

静岡県健康福祉部健康局
健康増進課



ちゃっぴー(c)静岡県
健康と生きがいづくりのキャラクター



健康寿命 全国 1 位

富士山の高さ 3,776メートル

- ◆人口◆ 約356万人
- ◆高齢化率◆ 30.7% (全国29位)
- ◆健康寿命◆ 全国 1 位
男性73.75歳、女性76.68歳

【健康長寿の秘訣】

- ・ 地場の食材が豊富で食生活が豊か
- ・ 全国一のお茶の産地で日頃からお茶を沢山飲んでいる
- ・ 高齢になっても働く人が多い
- ・ 気候が温暖であること



静岡県地域支援事業体制

◆市町数 35市町（23市、12町）



福祉長寿政策課 福祉長寿政策班・地域包括ケア推進室

- 生活支援体制整備事業
- 認知症施策の推進

【伴走支援】

- ・生活支援の担い手確保や高齢者の社会参加促進

健康増進課地域支援班

- 介護予防・日常生活支援総合事業
- 一体的実施支援事業

【伴走支援】

- ・専門家派遣による支援
- ・ロジックモデルを活用した事業整理

【研修など】

- ・専門職のスキルアップ研修
- ・介護予防ケアマネジメント研修 他

■ 松崎町における支援経過（1）

支援の目的

- ・ 生活支援体制整備に係る協議体の設置
- ・ 町の支え合い事業であるハート&ヘルプ事業の見直し

1回目支援

- ・ 町の事業の棚卸し
- ・ 2回目までに事例をやってみよう
→事例の積み重ねによって課題が見えてくる、地域を感じる事ができる



2回目支援

◆ハート&ヘルプ事業実践報告

事前の想定よりもうまくいった！

《アドバイザーから助言》

①ヘルパーが入っていない事例にどう支援を届かせるか、②制度の使いやすさの改善に向けた利用の事例集作成、③支援者の確保と制度の啓発を目的とした小規模な地域との話し合いの実施

◆実はこんな団体が、 それって協議体じゃない？

- ・「学びあい講座」が協議体として位置づけられるか
- ・担当課と調整することに

3回目支援

◆住民グループも参加

それを協議体でやりませんか

- ・協議体が立ち上がった
- ・北極星を決めよう

「互いを気にかけてあえる愛あふれるロマンの町」

◆振り返り

- ・地域資源とのつながりを広めればもっと可能性が広がると希望が持てた
- ・まさに闊達な話し合いできた。北極星良いものができた。「互い」に観光客や家族も含んでいる。みんなの優しい思いが含まれた北極星。協議体の立ち上げはゴールじゃない。

好事例の獲得

- 関係者の合意形成
- トライアルマッチングの実施

今後の展開

- 協議体の始動、SC活動など支援
- 本事例を踏まえた研修事業の実施



松崎町及び支援チームの皆様
ありがとうございました

R7年度 地域づくり加速化事業市町村伴走支援報告会

東海北陸厚生局からの報告

2026.3.6

東海北陸厚生局

健康福祉部 地域包括ケア推進課

地域づくり加速化事業 支援を通して【珠洲市・御嵩町・松崎町】

石川県珠洲市【テーマ】震災復興期のサービス・活動事業全般



出典:地域包括ケア「見える化」システム(令和8年2月6日取得)

石川県北部に位置する。

人口 12,929人
高齢化率 51.6%
認定率 21.8%
介護保険料 6,400円
(8期からの伸び率0%)
日常圏域数 1圏域
地域包括支援センター1か所(委託1)

【アドバイザー】※敬称略
鈴木俊文(静岡県立大学)
大内佳子(東松島市)
松川竜也(ツツイグループ)

問題として捉えていること

- 令和6年度の能登半島地震により、複数の事業所が建物被害を受け、多くの介護職員が離職し、複数の事業所が休止している。開設している通所介護事業所については、より要介護度が高い方の受け入れを優先しているため、軽度者の待機が多くなっている。また、送迎がない事業所については、自身で来られる人のみしか利用できない状況となっている。
- 閉じこもり傾向の高齢者が増加している。



珠洲市(行政)として、何から手を付ければよいかわからない。



これに対して…支援の方向性

- 不足している資源に目が向きがちでどのように元の状態に戻せばよいのかという焦り、行政側が住民に何かをしてあげる視点→住民の自助・互助を活かす視点へシフト→まずは、珠洲市内の関係者から知恵をもらい、残っている資源にも目を向け、課題を整理！
アドバイザーから東松島市の復興の歩みの事例提供、ある資源の活用方法、自助・互助のしくみ等、様々な視点からアドバイス(災害復興計画や地域福祉計画との整合性も視野に)
- 石川県による珠洲市への細やかな意向聴取と課題整理等資料の作成。



最終的な結果

- 行政だけで頑張るのではなく、住民や関係者と共に協議し、一緒に作っていく体制の構築
- ロードマップの作成(R8年度)

厚生局の所感

- 先が見通せず、目標を立てることも困難な状況下、みんなの意見を持ち寄り、解決策を見出すことに気付かれたことは素晴らしく、力強い一歩を踏み出されたと感じる。

地域づくり加速化事業 支援を通して【珠州市・御嵩町・松崎町】

岐阜県御嵩町【テーマ】地域ケア会議の効果的な活用



出典:地域包括ケア「見える化」システム(令和8年2月6日取得)

岐阜県南部に位置する。

人口 17,516人
高齢化率 31.8%
認定率 17.4%
介護保険料 6,850円
(8期からの伸び率3.2%)
日常圏域数 4圏域
地域包括支援センター 1か所(委託)

【アドバイザー】※敬称略

- ・服部真治(日本能率協会総合研究所)
- ・松本小牧(豊明市役所)
- ・(臨)阿部祐子(豊明市共生社会課重層支援センター作業療法士)

問題として捉えていること

- ・地域ケア会議が形骸化している。地域課題として捉えることができず、事例検討のみとなっており、地域サービスの創出へとつながらない。
- ・介護保険料も年々増加傾向で、総合事業の事業費が上限越えしている。庁舎内の連携を図りつつその解決策を図っていく仕組みを考える必要がある。



これに対して…支援の方向性

- ・アドバイザーから、地域ケア会議はあくまでもツールの一つ、御嵩町として取り組むべき課題は何なのかの問いがあり。
- ・介護保険料の増加を抑え、住民が元気になる仕組みとして、サービス・活動C(リエイブルメント)を実施する予定でもあったことからそれについて、モデル実施の方向へシフト。



最終的な結果

- ・通所Cについてのモデル実施
- ・地域の関係者向けの事業説明会

厚生局の所感

- ・介護保険の新規申請者がどのサービスに繋がっているかなど、事例を振り返ることで、地域包括支援センター職員の意識の変化が生まれた。また、サービス・活動Cをモデル的に実施し、アドバイザーから具体的かつ的確な助言のもと、修正しつつ実施できたことが、次年度以降の効果的な運用へと繋がった。
- ・最終的に関係者向けの説明会まで実施することができたことは、担当者の前向きな姿勢によるものと感じた。

地域づくり加速化事業 支援を通して【珠州市・御嵩町・松崎町】

静岡県松崎町【テーマ】 サービス・活動事業、生活支援体制整備への取組



出典:地域包括ケア「見える化」システム(令和8年2月6日取得)

静岡県伊豆半島南西部に位置する。

人口 6,038人
高齢化率 48.8%
認定率 18.9%
介護保険料 5,700円
(8期からの伸び率0%)
日常圏域数 1圏域
地域包括支援センター 1か所(直営)

【アドバイザー】 ※敬称略

- ・澤 美杉(国保中央会)
- ・松川竜也(ツツイグループ)
- ・松本小牧(豊明市役所) 1.5まで

問題として捉えていること

- ・総合事業について従前相当サービスのみになっており、上限も超過している。総合事業のサービスを充実させたい。
- ・生活支援体制整備について、協議体の設置ができていない。



これに対して・・・支援の方向性

- ・総合事業の上限越えについては、松崎町の人口規模や今後の高齢化の推移から(高齢者人口は現時点がピーク)、新たなサービスを創出するよりも、松崎町の住民がこの地域に住み続けられる仕組みを考えた方がよい。
- ・もともとある助け合いの仕組みのハート&ヘルプ事業を見なおし、助ける方助けられる方という仕組みから、お互い得意なところを助け合う仕組みへと改善する方向へ。モデル的に実践(事例を重ねる)。
- ・庁内の他部署とも連携しつつ、活発に活動されている住民組織(学びあい講座)を巻き込み、一緒にシステムを考えていく方向へ➡協議体として発足



最終的な結果

- ・助け合いの仕組みを見直すきっかけ作り(具体的な改善は今後)
- ・住民組織のメンバーを巻き込み、それが協議体として発足

厚生局の所感

- ・松崎町にとって、今後必要となる課題に取り組むことができた。住民組織の方々を巻き込み、共に作り上げていく土台作りができたことが、今後、松崎町の高齢者が住み慣れた地域に住み続けられる地域になることにつながると感じた。